

フィンランド短期留学で高齢者ケアをテーマとする 学際的教育セミナーに参加した看護大学生の学び

岡久玲子¹⁾ 今井芳枝¹⁾, 板東孝枝¹⁾, 横田真梨菜²⁾, 一宮由佳²⁾,
植野結衣²⁾, 松浦日向子²⁾, 藤江華²⁾, 岸田佐智¹⁾, Rozzano C. Locsin¹⁾

1) 徳島大学大学院医歯薬学研究部, 2) 徳島大学医学部保健学科看護学専攻

1. はじめに

2018年度徳島大学医学部のフィンランドへの短期留学生5名は、学部間学術交流協定校であるメトロポリア応用科学大学で開催されたアジア・プログラムの国際セミナーに参加する機会を得た。本プロジェクトのプログラム名は、“Interdisciplinary Education in Nursing and Oral Health Care of Elderly”であり、メトロポリア応用科学大学と徳島大学の医学部・歯学部との間のパートナーシップ契約に基づき、フィンランド国立教育庁により助成を受けたものである。

フィンランドで開催された今回のセミナーのテーマは“multi professional cooperation in elderly care, elderly care in the curriculum, cultural sensitivity and discovery learning”であった。近年、フィンランドでは日本と同様、急速な高齢化の進展がみられている¹⁾。地域で暮らす高齢者の健やかな生活を実現するためには、高齢者支援に係る専門職の果たす役割は極めて重要であり、今後、多様な専門職のはたらきと養成が必要になる²⁾。このような現状からも、今回のセミナーは、両国の高齢者ケアの現状と課題を共有し、文化的背景や教育の観点からも考える貴重な学術交流の場となった。

本研究の目的は、フィンランド短期留学中に、高齢者ケアをテーマとする学際的教育セミナーに参加した看護大学生の学びを明らかにすることである。

2. 研究方法

1) 対象: 2018年度にフィンランドのメトロポリア応用科学大学保健看護学部で短期留学し、アジア・プログラムの国際セミナーに参加した医学部保健学科看護学専攻4年生2名、3年生3名を対象とした。留学期間は、2018年8月20日から27日で、セミナーへの参加は8月22日・23日の2日間であった。

2) セミナーについて

徳島大学からのセミナー参加者は、医学部から看護4年生2名、看護3年生3名(編入生2名を含む)、教員3名の計8名、歯学部からは、学生6名と教員2名の計8名であった。セミナーのプログラムは、1日目は両大学の教員による高齢者ケアに関するレクチャー、ワークショップ、徳島大学の看護4年生によるプレゼンテーション、2日目は徳島大学の口腔保健の学生のプレゼンテーション、高齢者施設の見学であった。

看護4年生2名は、日本の高齢者ケアに関する文献研究を行い英語にて発表した。テーマは、“Current situation, issue of Japanese community-based integrated care system in elderly care for dementia, and new role of nurses”と、“Complementary and Alternative Medicine (CAM) for the elderly with cancer in Japan, and the nurse’s role”であった。留学前より、文献検討をもとにパワーポイントで発表資料を作成し、看護3年生と教員を前に、デモンストレーションと意見交換を行い修正を加え、当日の発表に臨んだ。

3) データ収集方法

セミナー終了後に研究者らが作成したアンケート用紙を配布し、目的を説明したうえで、同意する場合は短期留学が終了するまでにアンケートに回答し提出するよう依頼した。質問項目は、本プログラムに参加しての達成感と満足度(各々0から10点の11段階で評価。10点が最も達成度、満足度が高い)、自由記述項目として、「プログラムで一番印象に残ったこととその理由」、「今回参加したことで今後どのように看護に役立つ(役立てよう)と思うか」、「今回のプログラムに参加したことで気づいた自分の課題や目標について」であった。

4) 分析方法

本プログラムに参加しての達成感と満足度については、平均点を算出した。自由記述項目については、内